



**Data**

監督：デヴィッド・エアー  
 製作：ビル・ブロック、デヴィッド・エアー、イーサン・スミス、ポール・ハンソン、バラク・パテル  
 脚本：スキップ・ウッズ、デヴィット・エアー  
 出演：アーノルド・シュワルツェネッガー／サム・ワーシントン／テレンス・ハワード／ジョー・マンガニエロ／マックス・マーティーニ

## 👁️👁️ みどころ

カリフォルニア州知事を2期7年務めたアーノルド・シュワルツェネッガーも67歳。何やら少し怪しげなタイトルの本作では、それまでの完全無欠なアクション・ヒーローから大幅に軌道修正し、陰のあるヒーロー役に挑戦！

「破壊屋」の異名をとる麻薬取締局（DEA）の特殊部隊のリーダーの誇りは、チームの結束力。ところが、本作のテーマは、アガサ・クリスティの原作どおり「そして誰もいなくなった」だから面白い。さて、その原因は？その暗躍者は？

第2次安倍改造内閣のポイントは女性閣僚だが、本作のポイントもチーム内の紅一点と女刑事の2人。シュワちゃんのチーム統率力には定評があるが、さて本作では・・・？その意外性と、「そして誰もいなくなった状態」の演出に注目！



## ■□■ シュワちゃんが、なぜか怪しげな役に！ ■□■

03年にカリフォルニア州知事選挙に出馬して、見事に当選。映画スターから政治家への華麗なる転身を果たしたアーノルド・シュワルツェネッガーは、2期7年間知事職をつとめた後、再び俳優業に復職した。そこには、1947年生まれという年齢の問題があったのかもしれないが、そのホントの理由は、本人もしくはごく内輪の関係者しかわからないだろう。復職後、彼は『エクスペンダブルズ』（10年）、『エクスペンダブルズ2』（12年）、『大脱出』（13年）（『シネマルーム32』255頁参照）等に出演している。彼は従来（つまり、政治家に転身する前）は、正統派アクション・ヒーローの役ばかりだった

が、『サボタージュ』というタイトルからして何とも怪しげな本作では、外面も内面も少し怪しげで、必ずしも「絶対的正義のヒーロー」とは言えない役柄に、挑戦！

## ■□■主要な登場人物は、9人の特殊部隊と女刑事のみ！■□■

本作は、麻薬取締局（DEA）最強の特殊部隊（つまり、突入部隊）のリーダーたる、ジョン“ブリーチャー”ウォートン（アーノルド・シュワルツェネッガー）が、①副リーダー格のモンスター（サム・ワーシントン）、②シュガー（テレンス・ハワード）、③グラインダー（ジョー・マンガニエロ）、④パイロ（マックス・マーティニー）、⑤ネック（ジョシュ・ホロウェイ）、⑥トライポッド（ケビン・ヴェンス）、⑦スモーク（マーク・シュレーゲル）、そして紅一点の⑧リジー（ミレイユ・イーノス）という8人の部下を率いて、麻薬カルテルのアジトに突入し、見事な成果を挙げるシークエンスから始まる。本作の主要な登場人物は、上記9名のチームの他は、アトランタ市警の女刑事キャロライン（オリヴィア・ウィリアムズ）だけだ。

完全武装したアメリカの海兵隊による敵陣地制圧の様子は、『ネイビーシールズ』（12年）（『シネマルーム29』126頁参照）や『ゼロ・ダーク・サーティ』（12年）（『シネマルーム30』35頁参照）で近時よく描かれているが、本作冒頭のシークエンスはまさにそれだ。麻薬カルテルのアジトである豪邸への強行突入の目的は、犯人の逮捕（殺害？）の他、麻薬や現金の確保と押収。そう思いながら観ていると、アレレ……。このチームはカルテルが蓄えたヤミ資金2億ドルの隠し部屋まで到達しこれを確保しながら、そのうち1000万ドルの札束をトイレの排水管を使ってネコババ……。こりゃ、一体どうなっているの……？

## ■□■原作は何と、あの『そして誰もいなくなった』！■□■

映画冒頭には、拷問を受けている女性がジョンの助けを求めて叫びながら殺されていくシーンが描かれるが、これは一体ナニ？本作を監督・脚本したデヴィッド・エアーを私は全く知らなかったが、彼は2014年秋に日本で公開される『フューリー』が最新作という1968年生まれ監督だ。『U-571』（00年）や、『トレーニング デイ』（01年）、『S. W. A. T』（03年）の脚本を担当した、「犯罪モノ」を得意とする監督らしいが、本作の原作は何とあのアガサ・クリスティの名作、『そして誰もいなくなった』らしい。

9名の特殊部隊のうち、まず最初にいなくなるのは、突入時に撃たれて死亡したスモーク。これは立派な殉死だ。しかし、一仕事終了後、①自宅代わりのキャンピングカーもろとも、パイロが列車にひかれて死亡、②ネックが無残に身体を切り刻まれて死亡、③チームを辞して山小屋にこもっていた元海兵隊員のトライポッドまでもが謎の武装グループに襲撃されて死亡したから、こりゃ一大事。これだけジョンのチームの構成員への連続殺人事件が続けば、こりゃジョンに対して恨みを抱く何者かによる報復と考えざるをえない。

当初、上記①のバイロの死亡を事故死とみていたアトランタ市警の女刑事キャロラインが考え方をそのようにあらため、新たな捜査を開始したのは当然だ。

## ■□中盤以降は次第にミステリー色が・・・■□

それにしても、なぜ、ジョンのチームの人間がこのように次々と殺されていくの？それが本作中盤以降の、そして本作の真のテーマだが、その理由の1つが、せっかくチーム全員でネコババした1000万ドルが忽然と消えてしまったことにあることは明らかだ。事件後、ド派手な爆発によってふっとばした2億ドルの中から1000万ドルが消えていることをつかんだ内務調査局は、ジョンたち9名のチームを厳しく取り調べたが、肝心のブツがないこともあって、結局ジョンたちは無罪放免。調査は打ち切られた。そのため、事務職に追いやられていたジョンとそのチームの面々には再び身分証明書と拳銃が与えられたが、こう次々と仲間が消えていったのでは・・・。

一体、その犯人は誰？黒幕は誰？そして、冒頭のシーンで見たとおりの愛する妻と息子を惨殺されたジョンは、その後どんな気持ちでDEAの仕事に従事し、「破壊屋“ブリーチャー”」という異名をとるほどに頑張っているの？さらに何よりの疑問は、そんな精鋭チームがなぜ任務遂行の中で1000万ドルのネコババという大それた行動を仕出かしたの？しかも、その金が忽然と消えたのは一体なぜ？ひょっとして、チームの中に裏切り者が・・・？しかし、ジョンが率いる9名の特殊部隊の取り柄は何よりも「チーム間の信頼」だ。ジョンを中心に団結し、互いに信頼関係があるからこそ、命を張った危険な任務に従事し、次々と成果を挙げることができたわけだ。

そんなこんな展開の中、アレレ、アーノルド・シュワルツェネッガー特有のアクション大作だと思っていた本作が、がぜんミステリー色を帯びてくることに・・・。

## ■□紅二点がポイントに！この言葉遣いはセクハラだが■□

2014年9月3日に登場した第2次安倍改造内閣では、高市早苗、松島みどり、小淵優子、山谷えり子、有村治子という5人の女性閣僚が誕生した。さらに、自民党の政調会長には弁護士出身で保守派の稲田朋美が登用されたからすごい。しかし、アメリカでは民主党の次期大統領候補として最有力のヒラリー・クリントンををはじめ女性政治家は多い。また、警察の分野だって本作にみるキャロラインのような優秀で戦闘的な女刑事がいる。さらに、麻薬組織のアジト内にお先に潜入して、女の色気も使うわ、格闘技も使うわ、武器も使うわ、と大暴れするジョンのチーム紅一点のジミーもいる。もっとも、ジミーはモンスターの妻ながら、男にはルーズな面があるようだし、何より自ら麻薬を使用しているようだから、ちょっとやばい。

他方、本作は脚本もデヴィッド・エアーが担当しているが、本作のセリフで目立つのは柄の悪さ。命知らずの特殊部隊だから言葉遣いが荒いのは仕方ないが、訓練時、突入時、

そして平常時を問わずこのチームの言葉遣いの悪さはあまりにひどい。日本ではこんな言葉遣いをしていれば、すぐにセクハラで訴えられても仕方ないところだが、このチームではジミーも全然負けていないから、結果的にノープロブレム・・・？しかし、ジミーよりは上品な、女刑事キャロラインが、そんなジョンのチームの面々と接するのは大変だ。

## ■□■バックはメキシコに！この共闘関係はいつまで？■□■

ジョンは当初はキャロラインの捜査を拒んでいたが、トライポッドを殺した一味の素性がヒスパニック系の暗殺部隊カイビルだと判明し、さらにその背後にメキシコにある巨大な麻薬組織ガルザの存在が浮上すると、さすがにキャロラインの事情聴取に応じ、必要な情報を提供していくことに・・・。それは、そのガルザこそジョンによってそのボスを逮捕されたことの報復として、2年前にジョンの妻と子供を誘拐し殺害した組織だったからだ。

しかして、ガルザの復讐を恐れながらもその対策に立ち向かうジョンのチームと、アトランタ市警の女刑事キャロラインの間には、「共闘関係」が成立したかに見えたが、いかにせん、ジミーとキャロラインの女同士の火花は散ったまま。この2人の相性は最悪のようだ。しかも、ジョンはガルザへの個人的報復の意思を強く心に秘めているようだから、キャロラインとの共闘はどこまで本音？ひょっとして、キャロラインを利用しているだけ？さらに、ここでもなお疑問が続くのは、あの1000万ドルは一体どこに消えたの？ということだ。

## ■□■後半からは、ますますミステリー色が濃厚に！■□■

ある日、キャロラインの捜査によって川底からカイビルの暗殺者3人の死体が引き揚げられると、意外な事実が判明。それは、彼らを検死した結果、ジョンのチーム員への連続殺人の実行犯と思われていた彼らは、その実行以前に抹殺されていたということだ。それは、一体何を意味するの？

それはひょっとして、パイロ、ネック、トライポッドを殺害したのは、ガイビル一味ではなく、ジョンのチーム内の誰かであることを意味するの？もしそうだとすると、その動機はあの消えた1000万ドルとしか考えられないが、その現金が見つかっていない以上、またチーム内の誰かが殺され「そして誰もいなくなった」状態になっていくの・・・？そんな風に本作後半からは急速にミステリー色が濃厚になっていくが、やはりポイントは、仲の悪い紅二点ジミーとキャロラインだ。

もともと、本作の主人公はあくまでジョンを演じるアーノルド・シュワルツェネッガーのはず。するとさて、後半からクライマックスにかけての本作の怒涛の展開は？

## ■□■なるほど、こうして「誰もいなくなる」の・・・■□■

本作後半には、荒くれ男たちの中の紅一点として自分の立場をキープし、あの汚い言葉遣いにも十分対応してきたジミーの、男の選び方についての意外な面が登場するのでそれに注目！他方、1000万ドルがどこに消えたのか？それがどこでどのような形で登場するのか？その主役は誰なのか？その動機や狙いは何だったのか？それについても、後半からクライマックスにかけての展開で、デヴィッド・エア監督は明確にスクリーン上で説明してくれる。さらに、冒頭の突入シーン、内部調査が終了した後の訓練開始シーンにみるアクションの他、ハリウッド映画らしくクライマックスでは激しいカーアクションと銃撃戦も登場する。

それらのシーンは1つ1つあなたの目で確認してもらいたいが、本作の「ヒネリ」はいかにして、アガサ・クリスティの原作とおり「そして誰もいなくなった」状態を作り出すかということにある。



「サボタージュ」2014年11月7日～TOHOシネマズみゆき座他、全国ロードショー  
提供：ブロードメディア・スタジオ/ハピネット 配給：ブロードメディア・スタジオ  
© 2013 DEAProductions, LLC ALL RIGHTS RESERVED.

## ■本作の「美学の幕切れ」度は？■

ヤクザ映画の美学は『網走番外地』シリーズの高倉健でも、『緋牡丹博徒』シリーズの富司純子でもコトを終えたあと、負傷しながら一人で生き残り、歩き去っていく主人公の姿（背中）にある。映画では主人公が死んでしまっはやはり、ラストシーンが構成しにくいわけだ。しかして本作ラストには、それまでのストーリー展開はこのラストシーンをつくり出すための導入部にすぎなかったのか、との思いを強くするものになる。

そのため、舞台は当然アメリカからメキシコに移っていく。これはもちろん、既にジミーが夫のモンスターを裏切って別の男とデキていることが告白され、激しいカーチェイスも終わった後だ。さあ、そこで展開されるシークエンスとは？そして、映画のラストシーンとしてはかなり珍しい、「そして誰もいなくなった」状態の演出とは？それはあなた自身の目でハッキリ確認し、その「美学な幕切れ」度をしっかり採点してほしい。

2014（平成26）年10月6日記